

令和五年度一般選抜試験

個別学力試験問題(前期日程)

国語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十一ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(鹿毛雅治『モチベーションの心理学』による)

(注1) ドイチュ——米国の社会心理学者(一九二〇～二〇一七)。

(注2) 依存関係——論理学で、ある事物の存在・状態・価値などが、他の事物によって規定され、制約される関係。

(注3) マスター目標——有能さを身につけることを目指すこと。

(注4) パフォーマンス目標——自分の有能さを示すことを目指すこと。

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部Aについて、「それを競争だと思ふ人」は、英語検定試験を受けることで、どのようになりたいと考えているのか、答えよ。

問三 傍線部B「実」よりも「名」を選ぶ」とあるが、具体的にはどういうことか、答えよ。

問四 傍線部Cについて、「パフォーマンス回避目標」が高い人は、競争においてどのような行為をすると考えられるか。本文中から三十五字以内(句読点を含む)で抜き出せ。

問五 傍線部D「競争の弊害」とあるが、競争が組織にもたらす弊害はどのようなものが考えられるか、答えよ。

二 次は、日本の大学で日本語とフランス語の比較言語学を教えているフランス・ドルヌと、小林康夫による文章である。これを読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(フランス・ドルヌ＋小林康夫『日本語の森を歩いてーフランス語から見た日本語学』による)

問一 傍線部「前」と「後ろ」という正反対の言葉が出てくる」とあるが、なぜ正反対の答えが出てくるのか。筆者の論に即して、「皿の前」と答えた人、「皿の後ろ」と答えた人、それぞれの理由を答えよ。

問二 空欄

A

に入ると思われる具体的な言葉の例を、以下の指示にしたがって答えよ。

- (1) どのような状況での発言であるのかを簡潔に示せ。場所は学校の教室とする。
- (2) 空欄に入る先生から生徒への、発言を記せ。

三

次の文章を読んで、問いに答えよ。

県居翁(注1)の門人(注2)に、倭文字(注3)といへるは才女なりしが、齡二十にてみまかりにければ、皆人惜しみあひつつ、かなしみの歌(注4)よめるを、かの倭文字の家集『文布』(注3)といふ書の奥に記し添へたるに、翁をはじめ門人男女の歌文多く載せたり。その中に宇万伎一人の歌なし。わきてしたしかりければ、宇万伎の母の歌もあるを、いかで宇万伎の歌のみ入らざりけむといぶかしむ人あり(注5)。そは故ある事にて、かの歌どもの中に、読人知らずとて入りたる歌こそ、宇万伎の歌なり(注5)。ア。いかにとなれば、宇万伎はじめ倭文字が響取りせざりし程に、たがひに思ひかはして、みそかにかたらひし事のありければ、歌にもその心あらはれて、

C 独りのみ思ひつづけて嘆くかな人にいふべき昔ならねば

とはよめるにて、名をあらはさむは面ぶせなれば、読人知らずとは挙げしなりけり(注6)。かかる例は撰集(注7)などにも常ある事なり。これにつきていぶかしき事あるは、『新千載集』(注8)雑下に、独述懐といふ事を、為家卿のよみたまひし歌に、(注9)

とにかくに思ひつづけてねをぞなく人にいふべき昔ならねば

D この歌いささかの違ひにて、一首の上、心詞た(注10)。た同じ歌なり。されど宇万伎まさに為家卿の歌をぬすまむや。これはおのづから合へるにこそありけめ。古今等類の歌いと多けれど、かくばかりなるは数すくなくや

イ む。

(清水浜臣『泊泊筆話』による)

(注1) 梶居翁——賀茂真淵かものまぶち。江戸時代の歌人、国学者。 (注2) 門人——弟子。

(注3) 家集『文布』——倭文子の歌や文章等を集めた集。 (注4) 宇万伎——加藤美樹うまき。賀茂真淵の弟子の男性。

(注5) 読者知らず——作者不詳。 (注6) 面ぶせ——不名誉なこと。恥はづかしいこと。

(注7) 撰集——天皇や上皇の命令によって作られた勅撰和歌集。

(注8) 『新千載集』——南北朝時代成立の勅撰和歌集。

(注9) 独述懐——ただ一人心に思うことを述べる、という和歌の主題。

(注10) 為家卿——藤原為家。鎌倉時代の著名な歌人。

問一 文中の空欄 には助動詞「けり」、 には動詞「あり」を活用させた形が入る。それぞれ適切な形に活用して答えよ。

問二 傍線部A「みまかりにければ」を口語訳せよ。

問三 傍線部B「いかで宇万伎の歌のみ入らざりけむ」を口語訳せよ。

問四 傍線部Cの和歌の「昔」とは過去のどのようなことを指しているか、説明せよ。

問五 傍線部D「一首の上、心詞ただ同じ歌なり」となった理由を筆者はどのように述べているか、説明せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある)

盤珪ばんくゐ禪師ぜんじ、年老ユルニ、自謂ヲ「衛まもル生ヲ在リ口腹ニ」乃一以テ衡はかり量リ飯ヲ、每ごとニ飲ス食ス必ズ謹ム。有リ一僧ニ、笑ヒテ謂フ「耄ぼうノ所レ為ト也。」盤珪聞キテ之ヲ曰ク、「生キ無レ益ニ于ハ人ニ者ハ、即たとヒ天折スルモ固ヨリ不レ足ル愛ヲ也。生キ有益ニ于ハ人ニ者ハ、一ニ日ニ保テ残ざん喘ぜんヲ、則チ兆民ニ有リ一ニ日ニ之レ利。貪ル生ヲ甚ダシキハ於ヨリ俗ニ、為ガ此レ也。是レ豈ナラン汝ノ所レ知ル也哉ト。」

(角田九華『続近世叢語』による)

(注) 盤珪禪師——盤珪永琢(一六二二—一六九三)。江戸時代前期に活躍した臨濟宗(禪宗)の僧。

耄——年老いた人。

夭折——若死にすること。

残喘——のこりの息。余命のこと。

兆民——多くの民。

問一 傍線部1「乃」、2「為」、3「豈」の読みを答えよ。送り仮名があれば、送り仮名を含めて答えよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 傍線部A「笑」は、誰の、どのような行為を笑ったのか。説明せよ。

問三 傍線部B「不足愛也」を口語訳せよ。

問四 傍線部C「生有益于人者」は、「せいひとにえきあるもの」と訓読する。この部分について、

ア 原文に返り点を付けよ(送り仮名は不要)。

イ 意味をわかりやすく説明せよ。